

# 防災おうめ 掲示板用

令和2年7月  
No.210

青梅防火防災協会  
青梅消防署

## 熱中症を防ごう！！



梅雨が明け、夏本番となるこの時期は、まだ暑さに身体が慣れていないため、例年、体調を崩される方が多くなります。  
昨年の熱中症の発生状況や新型コロナウイルス感染症を想定した「新しい日常」における留意点を踏まえた予防対策が必要です。

### <「新しい日常」における熱中症予防行動のポイント>

○ マスクを着用している場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心掛けるようにしましょう。

また、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、適宜、マスクをはずして休憩することも必要です。



○ 新型コロナウイルス感染症を予防するためには、冷房時でも換気扇や窓開放によって換気を確保する必要があります。この場合、室内温度が高くなるので、熱中症予防のためにエアコンの温度設定をこまめに調整しましょう。

## 救急車を適正に利用しよう

～救急車が本当に必要な方へ少しでも早く～

### <<救急出動件数は過去最高を記録>>

東京消防庁における救急出動件数は、年々増加しています。令和元年中の救急出動件数は2年連続で80万件を超え、1日およそ2,200件、約38秒に1回救急車が出動していることになります(図1参照)。

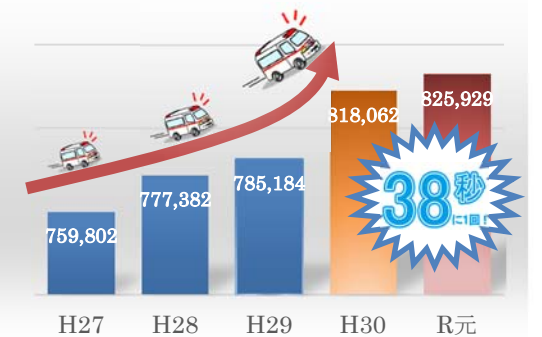


図1 年間出動件数(平成27年～令和元年)

### <<特に真夏は救急車の出動が増加します>>

月別の救急件数をみると、7月、8月の夏季には、熱中症等で特に救急車の出動が増加する傾向があります。



### <<救急車はどんなときに？>>

救急車の出動件数は、毎年増え続けていますが、救急車の数には限りがあります。

「どんな時に呼んでいいの？」と迷われる方も多いかと思えます。

今回、「こんなときには救急車を」という内容を右に例を挙げましたので参考にしてみてください。本当に救急車が必要な人へ少しでも早く到着できるように、適正な利用を心がけましょう。

## 救急車はこんなときに

- 意識がない(返事がない)
- けいれんがとまらない
- 大量の出血を伴うケガ
- 広範囲のやけど
- ものをのどにつまらせて呼吸が苦しい、意識がない
- 交通事故、溺れている、高いところから転落
- 子供のじんましん、顔色が悪くなった
- 乳幼児の様子がおかしい



### 防火・防災に関するお問合せ

青梅消防署 青梅市師岡町3-2-5 ☎0428-22-0119  
 日向和田出張所 青梅市日向和田2-309-1 ☎0428-24-0119  
 長淵出張所 青梅市長淵3-203-3 ☎0428-21-0119